



# 見えているからこそ 手遅れになるその前に

「口腔がんを早期発見しよう」

あなたは口の中の異変を見逃していませんか。

口腔がんで市民病院に来る人の約33%が、手術後も大きな機能障害が残ってしま  
う病期分類（以下、ステージ）ⅢとⅣの状態の人たちです。毎日のうがいや歯磨  
きで発見できる異変だからこそ、早期発見につながる受診を心掛けましょう。

◎島田市民病院 歯科口腔外科 ☎35・2111

## 増える国内の口腔がん患者

国内では、年間のがん患者のうち約1%7000人が口腔がんを発症し、このうち、約3000人の患者が死亡しています。また10年後には、現在の1.5倍の人が発症するともいわれています。島田市民病院においても、平成19年から23年までの5年間のがん患者のうち、口腔がん患者は約1%。さらに口腔がん患者の約33%が、初診で「ステージⅢまたはⅣ」と診断される状況

です（グラフ1）。このステージⅢやⅣはいわゆる「進行がん」であり、手術後の機能障害が大きく、5年後の生存率も著しく低下します（表1）。  
このような状況から、市民病院では、口腔がんの早期発見・治療を推進しています。

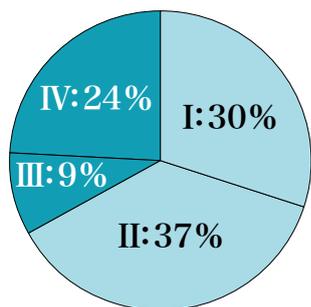
## 自己判断が落とし穴

口の中の変化は、毎日のうがいや歯磨き、食べたり飲んだりしたときの違

和感で見つけやすいはずですが、実際は重症化してから受診するケースが多くなっています。では、なぜ重症化するまで受診しないのでしょうか。

私たちは、普段見えていない内臓や骨など、体内で起きている異変には敏感で、健康診断などの結果を重く受け止めます。しかし、いつも見えている口の中の異変に対しては、危機感を持たない人が多いのが現実です。「まだ大丈夫」「痛くない」「口の中にはがんはできない」などと思って、安心して

【グラフ1】島田市民病院における口腔がんの初診時ステージ



【表1】口腔がんの手術後の5年生存率・経過など

ステージ	手術後の5年生存率	手術後の経過など
I	80.5%	手術後の機能障害が少ない。また、手術時間・入院時間が短く、放射線・化学療法の併用を避けることができるため副作用がない。
II	72.8%	
III	58.3%	手術後の摂食・嚥下 <small>えんげ</small> などの機能障害が大きく、前腕や下肢など体の他の部分からの移植手術が必要。また、手術時間・入院時間が長く、放射線・化学療法の併用が必要となるため副作用が発現する。
IV	34.0%	

しまうからです。これこそ口腔がんを進行させてしまう落とし穴。早くから異変が見えていたにもかかわらず、手遅れになるといっても残念な結果を招いているのです。

### 地域医療との連携を強化

市民病院では、島田歯科医師会と共同で、口腔がんで手遅れになる前のステージⅠやⅡの患者を早期に発見する取り組みを進めています。その一つが口腔がん検診事業です。県内初となるこの事業は、虫歯などの治療に通う地域の歯科医院で、簡易な検診を実施するというもの。市民にとって身近な歯科医院で、相談・検診して早期発見につなげることが目的です。また、万が一、口腔がんの疑いが出たとしても、地域の歯科医院と市民病院が連携し、円滑に診査・診断・治療を進めることができるのです。

口腔がんの治療に必要な環境が整っているこの地域だからこそ、連携によって生存率の高い早期発見を目指しているのです。

9月には歯科医師会と協力して、検診事業に関する共同講習会を実施。地域の歯科医も、着実に口腔がんの知識を深めています。

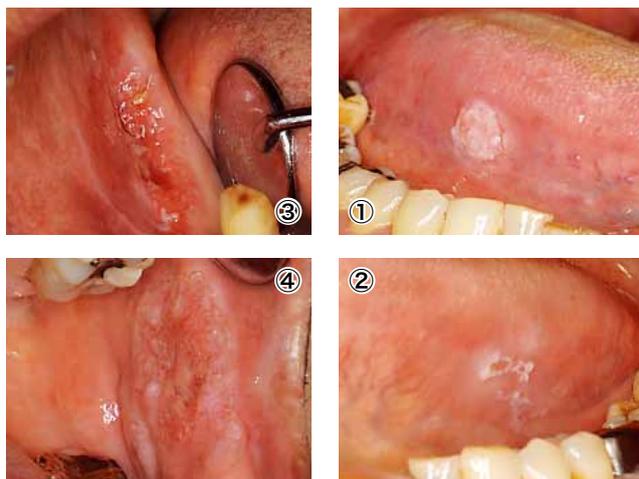
気になる箇所を見つけた場合は、気軽にかかりつけ医に相談し、本当の安心を手に入れましょう。

## こんなときは「かかりつけ医」に相談を！

### ◇口腔がんの症例◇

口腔がんは、痛みや違和感を伴うものばかりではありません。異変に気が付いたら、ただちに受診することをお勧めします。

また、長期間治らない口内炎も、口腔がんの可能性もあります。



- ①舌におできのような物（隆起）がある
- ②舌に白斑が見られる
- ③粘膜が荒れている
- ④頬の内側にブツブツした物が見られる



検診事業に関する共同講習会

本院では、口腔がんを早期に発見するため、島田歯科医師会と協力して共同講習会を開催するなど、口腔がんの検診事業の導入に取り組んでいます。口腔がんの検診や歯科医院での診察の際に口腔がんの疑いがある場合には、当院に受診していただき、病変部の検査を行います。痛みの少ない簡易的な検査で、細胞や組織に詳しい病理専門医が迅速かつ正確に診断し、口腔がん治療の経験豊富な医師が治療いたします。



島田市民病院  
歯科口腔外科  
田中四郎 医師

地域医療との連携を図ります